

人かいと海

小型底曳漁具改良試験調査(実施年:2009 荒浜沖)

実施機関: 宮城県漁業協同組合亘理支所 荒浜小型底曳組合
(独) 水産総合研究センター水産工学研究所
協力機関: 宮城県水産技術総合センター普及指導チーム
宮城県仙台地方振興事務所水産漁港部



ごあいさつ

宮城県漁業士会 会長 小野寺 敏一

早春の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、二月二十八日に各地を襲ったチリ地震津波で被害を受けられた皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

さて、世界経済の目まぐるしい動きの中、

魚価の低迷が続いており、私達漁業者を取り巻く環境は、年を増すにつれて益々厳しい漁業経営を強いられております。宮城県漁業士会の皆様には浜の漁民とともに漁業士として漁業生産活動に、それぞれの地域の振興に活躍をされていることと思います。

そのような中、宮城県漁業協同組合も三十三組合が一つになり早一年が経過します。本年度からはさらに組合の経営基盤の安定を図るため、漁業協同組合体制が一本化されていくとお聞きしております。支所組合に所属する私たち漁業者にとっては、組合が一本化されていく中で、組合が私たち漁業者の生活を守るよう一層のご尽力を期待するとともに、私たち漁業士は漁業者の一員として、各浜での指導者として自覚を持ち、組合とともに尚一層の活躍が望まれるものと感じております。これからも私たち漁業士は常に浜のリーダーとして宮城県漁業協同組合と連携し、経済の情報や漁業経営のあり方をいち早くキャッチするよう努力していかねければなりません。

また、先の総選挙で、私たちの国を預かる政権が民主党政権へと交代しました。私たちが思い描くような政策がどこまで実現するのか予断を許さない状況ではありますが、この政権とともに漁業が発展するよう、漁業士皆様方が力を合わせて漁業振興に取り組んで参りたいと考える次第でございます。先ほども述べましたように魚価の低迷がつづく厳しい経済状況の中、漁業をこれからの若い世代に受け継ぎ、漁業地域を活性化していくためには、漁業士一人一人が責任を持って活躍することが必要です。

最後になりますが、皆様のお力を得ながら私も宮城県漁業士会長として早二年が経過しようとしております。この間、皆様方のご尽力により宮城県漁業協同組合執行部と意見交換を行う機会を頂く等、様々な取り組みを行うことができました。本当にありがとうございます。漁業士会の益々の発展とこれからの漁業士一人一人の活躍を期待しております。

漁業士研修等の報告

宮城県漁業協同組合と宮城県漁業士会の意見交換会

宮城県漁業士会事務局

漁業士が宮城県漁協の現況及び今後の販売体制等について研修し、浜の若手漁業者への指導力を向上することを目的として、平成二十一年六月五日、宮城県漁協と漁業士会の初めての意見交換会が宮城県水産会館で開催されました。

宮城県漁協は木村経営管理委員会会長、船渡専務理事、平塚指導担当理事、芳賀経済事業担当理事、鷹指導部長以下関係課職員九名の方々に御出席頂き、漁業士会からは小野寺会長、尾形・伏見両副会長以下、会員十二名が出席しました。

会議では、はじめに県漁協の船渡専務理事、芳賀理事から業務内容及び今後の生産体制・販売体制等について説明頂いた後、漁業士会事務局が活動内容の紹介を行いました。また、質疑・意見交換では木村会長はじめ県漁協幹部の方々と漁業士の間で活発な意見交換が交わされ、大変有意義な会議であったとの声が多く聞かれました。

今後とも、宮城県漁協の御協力を頂きながら、こうした意見交換会を行っていきたくと考えておりますので、会員の皆様には奮って御参加下さるようお願いいたします。



挨拶する小野寺会長

漁業士研修会

宮城県漁業士会事務局

当漁業士会会員の知識向上を図るため、平成二十一年六月二十五日の通常総会後に、漁業士研修会が開催されました。

研修は、「漁業経営管理の必要性について」と題し、宮城県水産業経営支援協議会相談員の藤島武雄氏から、水産業の経営支援や融資制度、ノリ養殖漁家の経営状況等について講演いただきました。

漁業コストの増大や魚価の低迷等により魚価経営が大変厳しさを増している中、参加者は真剣に聴講していました。



藤島相談員の講演

パソコン簿記研修会

宮城県漁業士会事務局

経営状況を自ら把握し、今後の経営改善につなげることを目的として、平成二十一年九月十六日、女性漁業士を対象としたパソコン簿記研修会が宮城県水産会館で開催されました。この研修会は、県の農林水産経営支援課と宮城県水産業経営支援協議会の事業を活用して、漁業士会の主催で初めて開催されたものです。

当日は石巻のパソコンスクールパル橋本先生に講師をして頂き、帳簿や領収書等の入力、青色申告書の作成について研修が行われました。

参加した女性漁業士三名は、最初の入力作業には少し手間取りながらも、電卓による手計算が不要で、かつ集計作業が非常に楽なパソコン簿記の便利

さに感嘆しながら、一生懸命練習に打ち込んでいました。
漁業士会では、こうした経営改善に向けた研修会等を会員の皆様の要望により今後も開催していきたいと考えていますので、積極的に御参加下さるようお願いいたします。



パソコン簿記研修

東北・北海道ブロック漁業士研修会

宮城県漁業士会事務局

東北・北海道地区の漁業士の研鑽と相互連携を深めることを目的として、平成二十一年七月七日と八日の二日間、青森市及び東津軽郡平内町で開催されました。

今回は日本海ブロック漁業士研修会と合同で開催され、各道府県の漁業士・担当者約百三十人が参加しました。本県からは四名が参加しました。

研修会では、「日本周辺における漁場環境と水産資源の変動、今後の漁業活動への提言」と題して、北海道大学水産科学研究院の桜井泰憲教授から、温暖化による漁場環境と資源の変動、漁業の維持・存続に向けた生態系保全の重要性、将来の漁場環境の変化に対応した漁業の在り方について講演がありました。参加者は熱心に聞き入り、講師との活発な質疑も行われました。その後、「近年の高水温化傾向によ



北海道大学 桜井教授の講演

る漁業生産の変化」と「漁業後継者の確保」をテーマとして、各道府県の事例発表と意見交換が行われました。特に漁業後継者の確保については、複数の道府県で、小学生から高校生を対象とした水産教室に漁業士が講師として参加しており、後継者の育成・確保において漁業士が活躍している状況が紹介されました。

二日目に行われた視察研修では、(独)青森県産業技術センター水産総合研究所、「ほたて広場」を見学しました。

水産総合研究所では、ホタテガイ養殖の試験研究について説明を聞いた後、マコガレイ・ヒラメ・キツネメバル等の種苗生産施設を見せていただきました。

「ほたて広場」では、青森産ホタテガイを主とした魚介類・加工品の販売や、ホタテガイ養殖の学習コーナーなど、青森県の魚介類に関する情報の発信基地として随所に工夫があり、参考にまりました。

東日本女性漁業士交流会

宮城県漁業士会事務局

平成二十一年八月二十六日から二十七日の二日間、東日本女性漁業士交流会が石巻市で開催されました。

この交流会は、青森・岩手・茨城・千葉・宮城県の女性漁業士が、相互の活動状況や課題について意見交換を行い、今後の活動の向上に資する事を目的としています。今年度は宮城県漁業士会が主催し、各県から三十名の漁業士が参加しました。

開催にあたりましては、(株)石巻魚市場、(株)石巻しみん市場、宮城県漁業協同組合石巻市東部支所、宮城県漁協女性部連絡協議会、宮城県水産技術総合センターのご協力を頂きました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

ます。

交流会

参加者が三つのグループに分かれて、「後継者」と「経営管理」を協議テーマとして意見交換を行いました。

後継者の確保については、給料・休日等の待遇や漁業権、嫁不足への対応が必要であること、経営管理については、経営状況を自ら把握することの重要性、パソコンによる青色申告の有効性について意見がありました。



分科会での意見交換

ミニ講演

宮城県漁協女性部連絡協議会の清水みや子委員から、ライフジャケット着用推進運動に関する講演を頂きました。

宮城県漁協雄勝町東部支所女性部と

関係機関が一丸となった取り組みが紹介され、各県の女性漁業士に向けて、ライフジャケット着用の重要性を呼びかけることが出来ました。



ミニ講演 (JF女性連 清水みや子さん)

現地視察

二日目は現地視察が行われました。

宮城県漁協石巻市東部支所の鹿立かき処理場では、阿部支所長から安全安心な生がき生産の取り組みについて説明を頂きました。石巻しみん市場では色川代表取締役社長から施設の概要説明を頂いた後、店内見学が行われました。最後に、石巻魚市場では、須能代表取締役社長から、魚食普及に向けた精力的な取り組みについて御講演頂きました。

今回の交流会では、県内外の女性漁業士や漁業関係者の活発な交流が行われ、今後の漁業士活動へのヒントが得

られたと思います。
来年度は岩手県で開催される予定で、各県の交流による活動の輪がさらに広がっていくことが期待されます。



魚食普及の講演(石巻魚市場 須能社長)



かき処理場見学(石巻市東部支所 阿部支所長)

漁業士国内研修

宮城県漁業士会事務局

平成二十二年一月二十日から二十一日の二日間、漁業士国内研修(宮城県主催)が実施されました。今回は漁業士四名が参加し、富山県黒部市のくろべ漁業協同組合が行っている直販・加工・食育活動等の取り組みについて研修を行いました。

●くろべ漁協の直販事業について

くろべ漁業協同組合が経営する直販・飲食施設「魚の駅生地(いくじ)」を訪問し、くろべ漁協の富山参事から、直販事業の立ち上げに係る経緯をお聞きしました。

「魚の駅生地」は平成十六年十月にオープンし、鮮魚や加工品の直販棟の「とれたて館」と、新鮮な魚料理が食べられる食堂棟の「できたて館」からなっています。店員はパートを含めて六十名で、全てが漁協の職員です。場所は黒部漁港、魚市場、漁協事務所に隣接しており、北陸道黒部インターから車で約十分とアクセスも大変良好です。

直販棟には、ベニズワイガニやヒラメ、イカ類、バイ貝等の鮮魚や「生地の塩物(しおもん)」と呼ばれる女性部員手作りの一夜干し、水産加工品、さらには黒部の豊富な湧水を利用した地ビールまで、色々な種類の商品が陳列されています。黒部に水揚げされる魚介類は少量多品種で、鮮魚売り場では、店員が買い物客におすすめの食べ方や旬の季節を交えて対面販売する光



研修風景(JFくろべ 富山参事)

景が見られました。また、これらの商品は「魚の駅」だけでなく、くろべ漁協のインターネットホームページを通じて全国から注文も可能です。食堂棟には魚介類や一夜干し等を自分で焼いて食べられるレストラン、居酒屋、寿司の持ち帰り販売コーナーがあり、地元産の魚介類を存分に味わうことのできる内容となっています。

くろべ漁協が直販事業に取り組み始めたのは平成十三年で、この背景には、資源の減少や魚価の低迷、漁業者の高齢化といった全国共通の課題があり、年々厳しくなっていた漁家・漁協の経営を立て直すため、少量多品種の魚介類の付加価値向上や、漁業者の利益を確保するため流通改革に着手したそうです。漁協の直販事業は、当初、仲買・仲卸業者から強い反対を受けたそうですが、漁業者とも結束して粘り

強く協議を重ねた結果、現在は漁協も魚市場での買参権を取得してセリに参加し、仕入れた魚介類を直販しています。また、女性部と連携して魚料理の体験教室(随時受付)や首都圏等の学校で料理実習を行うなど魚食普及にも力を入れています。

「魚の駅」を中心とした取り組みは漁



「とれたて館」の館内

協単独の事業にとどまらず、地域の観光業とも連携しており、黒部の「街歩き」観光の目玉スポットとして多方面にもPRされています。今では、施設全体の年間来客数は二十五万人以上、平成二十一年の売上高は約四億円で漁協全体の利益の約七割を占めているそうです。

二日目は、黒部市水産物地方卸売市場、女性部の一夜干し作りの加工工場等の見学を行いました。

魚市場では漁港に水揚げされた魚介

類のほか、仲買業者が他で仕入れた魚介類の入札が場所を区切って行われており、産地魚市場と消費地魚市場の両方の機能を持っています。当日はベニズワイガニをはじめメダイ、タチウオ、カワハギ等の水揚げがあり、くろべ漁協職員も加わって入札が行われていました。また、魚市場近くの加工工場では、女性部員二名が一夜干し用のカワハギの前処理作業を行っていました。黒部では、以前からあらゆる魚種を干物として利用してきた習慣があったようですが、今もこうした取り組みを続けることで魚の付加価値を向上させ、消費者においしさをアピールしながら利益をあげています。



ビュッフェ形式の
レストラン



今回の研修では、地域漁業の生き残りをかけて、くろべ漁協が取り組んでこられた直販事業をはじめとする数々の取り組みを研修することができ、大変勉強になりました。最後になりましたが、視察を快く受け入れて下さいましたくろべ漁協の皆様にご心より感謝申し上げます。



女性部員による一夜干しづくり

一次産業交流会を開催しました

宮城県漁業士会事務局

平成二十一年八月十七日から十八日、一次産業交流会が開催されました。この交流会は、農林漁業の担い手がお互いの産業について視察交流を行い、理解を深めることを目的として平成十二年から開催されています。

本年度は林業研究会連絡協議会が幹事となり、松島町民の森で行われま

した。漁業士会からは北部二名、中部三名、南部一名の計六名が参加し、全体では二十八名の参加がありました。一日目は松島林業経営研究会の活動



活動事例発表



漁業士持参のウニに興味津々の参加者

紹介やツリーハウス見学、炭出し体験、恒例の食材持ち寄りによるバーベ

キュー、二日目は各参加団体の活動状況についての紹介・意見交換、間伐の現地見学等が行われました。来年度は漁業士会が幹事となり開催される予定ですので、会員の皆様には交流会の内容についての提案や奮ってのご参加をいただくようお願いいたします。

支部だより

北部支部

岩手県漁業士会大船渡支部・
宮城県漁業士会北部支部
交流会の開催

平成二十一年八月五日（水）に岩手県漁業士会大船渡支部・宮城県漁業士会北部支部交流会が開催されました。本交流会は、近隣地区でありながら県境を境に交流が少なかった、漁業士同士の交流・親睦を目的に開催され、平成十一年以降毎年それぞれの漁業士会支部を交互に訪問しており、今年で十一回目の開催になります。

今回は、宮城県漁業士会北部支部が主催し、気仙沼市を会場に岩手県大船渡支部会員六名、宮城県北部支部会員十三名、両県関係者や系統団体、市町村から十三名の計三十二名が参加しました。

交流会では、大船渡支部船本支部長、本県北部支部三浦副支部長が座長

となり、両支部の代表的な養殖種である、「カキ」「ワカメ」「ホタテガイ」について、代表者からそれぞれの現状・課題等を発表した後、意見交換を行いました。

「カキ」では、本県北部支部佐々木昇記指導漁業士が現状報告を行い、みやぎ生協との取引における店舗での実演販売や生協会員の漁場見学の実施、近年の身入りの低下には密殖の影響が大きいのではないかと口火を切りました。大船渡支部佐々木洋一支部長からは、カキサミットへ消費者や流通業者が参加し幅広い観点からの会議となったこと、カキは五月までおいしく食べられるが市場や消費者の理解が得られていないことから、もっとPRをしていくべきであるとの意見が述べられました。その後、宮城県でも漁協カキ部会で出荷期間延長の話が出ていることや両県共通のカキ殻の処理問題、今年度の種ガキの状況について話し合われました。

「ワカメ」では、本県北部支部最知隆指導漁業士から近年ワカメ生産は好調でしたが、本年四月にスイクダムシの被害があったことが報告され、近年岩手県で導入が進んでいる塩漬け装置の現状について岩手県からの情報提供をお願いしました。大船渡支部千田国広指導漁業士からは、岩手県でもスイクダムシの被害があり、四月中旬以降は廃棄処分としたことが報告されると共に、話題に出た塩蔵機械の使い勝手のよさや良好な製品の品質について紹介されました。その後、今年四月に両県



で被害をもたらしたスイクダムシの発生动向等について情報交換が行われました。

「ホタテガイ」については、本県北部支部鈴木章登指導漁業士、大船渡支部大和田信哉指導漁業士から、北海道の生産の影響による販売不振と価格の低迷に対して流通の工夫が必要、三陸産ホタテの価値を高めるために県を超えた情報交換が必要ではないかとの意見が述べられました。その後の意見交換では、宮城県の地産で死亡が多い原因としてホタテエラカザリの影響について質問が出され、岩手県では小型貝へ寄生すると死亡が多いこと等が報告されました。

地理的にはわずか百kmほどの違い

ですが、それぞれの養殖工程や考え方などの違いに、お互いに刺激を受け、次年度以降も引き続き交流会を開催することとして閉会しました。

なお、交流会の後は懇親会が行われ、交流会以上に活発な意見交換が行われました。

将来の担い手に向けて

青年漁業士 小野寺 芳浩

(JF宮城唐桑支所)

平成二十一年七月三十日、マリンチャレンジスクールが実施され、漁業の様子を話して欲しいとの依頼により参加させてもらいました。三回目となる今回は、参加生徒の年齢が自分の息子や娘と近いことから、何とか「海のこと」に感心を持って欲しい・・・と言う気持ちと、開催時期が夏休み期間中であることから、中学三年生の生徒にとつて進路、進学への選択の幅を広げ、多少なりとも将来の役に立ててもらうきっかけになれば・・・と考えた次第です。参加した生徒の顔ぶれは女子が多く、私と同じ地区からの参加者が目立った事には驚かされましたが、男子であれ、女子であれ、興味や感心を持って物事に望むのは素晴らしい事として自分の話をさせていただきました。取り留めのない話ではありましたが、真剣に聞いてくれた生徒の姿勢に心を打たれ、熱い物を感じ、一漁業者として自分自身もまた頑張っていかなければと思いました。



中部支部

アサリの外敵生物の駆除と資源増殖の先進事例を視察して

指導漁業士 斎藤 幸一

青年漁業士 内海 秀一

(JF宮城石巻支所)

万石浦は宮城県のアサリの主要な漁場の一つですが、資源の増殖のため、他県産の稚貝の移植が行われるようになりました。この稚貝に混入して漁場に持ち込まれたと考えられるサキグロタマツメタによるアサリへの食害が発生しており、昭和六十年代には五〇〇

トンを超えていた漁獲量が平成十八年には一二〇トン程度まで減少しています。現在、他県でアサリへの寄生被害が発生しているカイヤドリウミダコモが漁場に持ち込まれる恐れがあることから、他県産のアサリ稚貝の移入は中止されており、稚貝移植に頼らない資源の増殖が重要な課題となっています。

そこで、九月十七日から十八日に、漁業士会中部支部（二名）と県漁協青年部石巻総合支所支部（七名）、担当普及員（二名）とともに、アサリ漁業に係る先進的な取り組みが行われている静岡県浜名湖を視察しました。

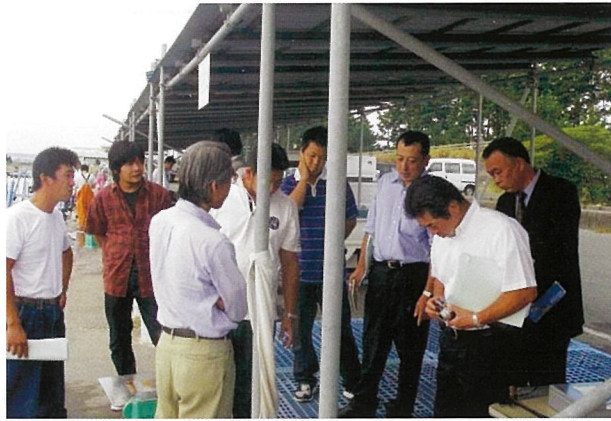
一日目の静岡県水産技術研究所浜名分場では、浜名漁協の採貝組合連合会の役員と研究所の職員から、アサリの資源管理や増殖、外敵生物の駆除についてお話を伺いました。浜名湖での資源管理の取り組みとして、選別器の目合拡大、銘柄「小」の漁獲量制限、夏場の漁獲量制限などが段階的に行われています。外敵生物対策では、ツメタガイ（サキグロタマツメタの近縁種）の卵塊の一斉駆除を実施しています。

また、浜名湖では周年アサリの漁獲が行われるため、日々のアサリ漁で混獲されるツメタガイはアサリ集荷場まで持ち帰り、指定されたカゴに集められ、ツメタガイの密度や駆除の状況を把握するための情報として利用されています。湖内では稚貝が高密度に発生する場所が確認されており、この場所から湖内の別の場所へ稚貝を移植する取り組みも行われています。

二日目に訪れた静岡県漁連のアサリ

出荷センターでは、担当の理事から県漁連によるアサリ仲買への参入による単価向上の取り組み、アサリ出荷センターでの一次加工と漁連ブランドとしてのアサリの販売についてお話を伺いました。

浜名湖はアサリ漁業の規模が大きく、専業者が多いこと、アサリが周年



漁獲されること等、万石浦のアサリ漁業と大きく異なる点がありますが、浜名湖での資源管理、外敵生物の駆除、発生した稚貝の有効利用、生産されたアサリの単価向上等の多岐にわたる取り組みは非常に興味深いものでした。今回の視察研修で学んだことを浜に還元し、アサリ資源の復活に役立てていきたいと考えています。

最後に、視察を快く受け入れて下さ

いました浜名漁協採貝組合連合会、水産技術研究所浜名分場及び静岡県漁連アサリ出荷センターの皆様にご心より感謝申し上げます。



「みやぎ食材伝道士の学び舎」

南部支部

指導漁業士 内海 信吉

（JF宮城塩釜市浦戸支所）

指導漁業士 水間 徳一

（JF宮城七ヶ浜支所）

「食材伝道士」は、県内の料理人が生産者の指導のもと、一連の作業を実際

に体験し、さらには、料理を提供する際に、作業実習により学んだ、地元食材のすばらしさや生産者の想いを消費者へ伝え、地産地消の意識向上を目的として、宮城県仙台市地方振興事務所が実施しているものです。

平成二十年度から、宮城県漁業士会南部支部も参加し、かき養殖、のり養殖の生産工程や食材の利用に関する実習を行い、地元食材のすばらしさや生産者の想いを消費者へ伝え、地産地消の意識向上を目的として、PR活動を兼ねた取り組みを推進しています。

取組内容

平成二十一年度は、二名の指導漁業士が受入を行い、かき・のり養殖に関する実習を全五回にわたり行いました。実習を終えた参加者からは「参加して始めて養殖業の大変さを感じ、また、のりなどはまったく知らなかった生産工程を知ることができ参考になった」との感想がありました。

この取り組みは、本年度で二年目を迎えますが、指導受入を行った漁業士が直接、仙台市内のホテルへかきを提供するなど、地産地消活動の成果がみられています。

料理人と生産者が作業を通じて交流することにより、養殖生産の苦労や大変さを感じてもらうとともに、生産者の想いを伝えることで、食材への関心を持つてもらい、活動の継続による地域食材の更なる利用拡大を期待しています。今後も「食材伝道士」の取組が行われることから、引き続き、取組に

参画し、地産地消活動への取組を推進したいと考えています。



「のり養殖」：加工作業



「かき養殖」：かき揚げ作業

トピックス

▼青年漁業士

養成講座について

宮城県漁業士会事務局

宮城県が主催する「青年漁業士養成講座」が五月二十七日・二十八日と七月六日・七日、宮城県水産技術総合センターで開催されました。これまでは二日間コースで年一回の開催でしたが、今回は参加者の参加のし易さを考慮して年二回の開催となりました。受講者は三名と少なかつたものの、最新の漁業情報や漁家経営のあり方等の講義を熱心に受講していました。



青年漁業士養成講座

本講座を受講された方には、宮城県青年漁業士の認定資格が与えられます。認定後の活躍に期待しています。

〈受講者の方々〉

小松 武さん

(JF宮城気仙沼地区支所)

石垣 拓真さん

(JF宮城鳴瀬支所)

穴戸 敏浩さん

(JF宮城亘理支所)

▼退任漁業士のお知らせ

平成二十年度で認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

指導漁業士

小野寺清次さん

(JF宮城気仙沼地区支所)

また、小松勝典さん(JF宮城気仙沼地区支所)、末永寿夫さん(JF宮城雄勝湾支所)、武田喜一さん(JF宮城石巻市東部支所)、上崎直創さん(JF宮城宮戸西部支所)が事情により、今年度退任されました。これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。



漁業士会からのお知らせ

来年度の活動内容について

漁業士会では、来年度も漁業技術や経営改善に関する研修会、交流会等を行っていく予定です。会員の皆様には、漁業士会活動への提案と積極的な御参加をお願いします。

【主な行事】

- 漁業士認定証交付式(県実施)
- 通常総会、研修会
- パソコン簿記研修会
- 一次産業交流会
- 東北・北海道ブロック漁業士研修会
- 漁業士国内研修
- 東日本女性漁業士交流会
- その他、必要により随時開催

海人では、皆様からの原稿をお待ちしています。内容は自由で、四〇〇字詰め原稿用紙一枚から二枚にまとめ、漁業士会事務局までお送りください。

海人編集委員(敬称略)

編集委員長 尾形一彦
北部委員 小野寺芳浩
中部委員 横江昭
南部委員 尾形静子